

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成24年12月発行 No.35号



サキシマフヨウ

西表島森林観察会を開催

10月27日(土)に、西表島森林観察会「ウトラ炭鉱跡の周辺植物を観察し、カヌーで森の巨人オヒルギに会いに行こう！」を西表島巨樹・巨木保全協議会他と共催で開催しました。

石垣島、西表島からの参加者19名(内小学生6名)は、2班に分かれ午前中はウトラ炭鉱跡へ通じる遊歩道を歩きながら各班の講師から周辺に生育する植物について、似た植物の見分け方等について説明を受けながら森林観察を行いました。

午後からは、浦内川支流ウトラ川に生育する森の巨人オヒルギまでマングローブ林を縫うように流れる川を2人乗りカヌーを漕ぎ講師の説明を聞きながらお目当てのオヒルギを目指しました。

森の巨人オヒルギに参加者は、こんな大きなオヒルギを初めて見て驚いた等様々な感想を持たれたようです。オヒルギの保全、保護の取り組みについて当センター職員が説明を行いました。オヒルギに触れながら元気でねと話しかける参加者も見受けられました。

亜熱帯の原生的な自然を有する西表島の貴重な森林生態系と生物多様性を、多くの方々に理解し認識を深めて頂くために今後も森林観察会を開催することとしています。



仲間川木道周辺のモニタリング調査を実施



11月2日(金)に仲間川支流の北舟付川(ニフナツガ)の木道周辺に設定したマングローブ林のモニタリング調査を実施しました。

調査項目は、立木の生育状況の調査、砂泥の移動状況を調べるための地盤高調査、林内の光環境調査、砂泥地の塩分濃度調査そしてデジカメによる定点観測撮影を実施しました。

今回は春先の調査と比較して各調査結果に大きな変化はみられませんでした。

大原中学校・船浦中学校の西表島横断を支援



10月14日(日)に竹富町立船浦中学校、11月3日(土)に竹富町立大原中学校の西表島横断が実施され、当センターは森林環境教育の一環として支援しました。

横断を通して自然の素晴らしさ、厳しさ、環境問題等について考える機会とし、助け合う心、励まし合う心を育てることにより友情の輪を広げると同時に長丁場における忍耐力を養うことを目的に、船浦中学校(生徒23名及び保護者、職員等30名の総勢53名)、大原中学校(生徒21名及び保護者、職員等50名の総勢71名)が挑戦しました。

両日とも曇り空で暑すぎず寒すぎず絶好の横断日和となりました。7時半に浦内川河口に集合し出発式を行った後、遊覧船で出発し軍艦岩に到着。それぞれ各班に分かれて8時20分に出発、マリュウドウの滝、カンピレーの滝を眺めながら順調に進み、昼食地点のイタチキ川合流地点には予定どおりの時間に到着しました。途中、声を掛け合い協力して、沢や倒木、急斜面を越え、終点の大富口までの約11.4kmの行程を無事踏破に成功し、出迎え隊の祝福を受けました。

大原中の昼食(イタチキ川)



船浦中での出発式



漂流・漂着ゴミの実態調査

10月2日(火)に漂流・漂着ゴミの実態調査を実施しました。

今回の調査は、当初9月27日に実施を予定していましたが台風17号の襲来で延期し、実施しました。台風17号は、西表島に接近した台風では今年最大の勢力だったこともあり、各調査地区ともに大きく変化をしていました。南風見田地区では、8月期まで観測された漂着ゴミが、海岸から姿を消していました。一方、ユチン地区や野原・船浦湾外地区では、海岸から奥の保安林内に大量の発泡スチロールや浮き球等の漁具が入り込んでいました。

海岸沿いを走る県道にも、発泡スチロールや浮き球が点在していたことから道路にも高波が打ち寄せたものと思います。9月期は、4半期ごとの漂着ゴミプロット調査を実施しましたが、台風の影響により、調査プロットよりも更に奥の林内にゴミが入り込んだため調査結果は少ないものとなりました。



大量の漂流・漂着ゴミ(ユチン地区)

ヒナイ川・西田川の利用状況調査報告



10月期の利用状況調査を西田川は19日(金)、ヒナイ川は23日(火)に実施しました。結果、西田川はカヌーツアーが3組、利用者数が21名(ガイド含む)で県外からの若者のグループでした。一方、ヒナイ川はカヌーツアーが14組、利用者数38名(ガイド含む)でした。今回は、夏の時期に比べて少人数でのグループがほとんどでした。当日は午後から曇り空でやや寒い1日でしたが、滝壺に入った利用者は「少し寒かったが気持ち良かった」と感想をもらしていました。

海岸林再生試験の外来種・在来種の発芽生育試験プロット設定

10月9日(火)に海岸林自然再生試験地において、外来種(ギンネム)・在来種(フクギ・テリハボク)の発芽生育試験プロットの設置を行いました。

この発芽生育試験プロットは、外来種であるギンネムがどのような光環境の条件下において発芽生育するのかを見極めるために設置しました。光環境が相違する5プロットでギンネム種子を播種し、また、苗長10cm~20cm程度のギンネム苗の植栽を行い、今後の発芽や生育状況を調べて行くことにしています。

また、在来種の発芽試験プロットは、郷土種であり防風林に適しているフクギ・テリハボクを低コストで発芽生育させるためにはどのような方法があるかを考察するために、腐葉土を客土しての播種・海岸の土に埋土して播種・海岸の地面に直播き・ポット苗・コンテナ苗などによる試験を行い、今後の発芽・生育状況を調べて行くことにしています。



在来種の播種状況

西表島の似たもの植物

フクギ

オトギリソウ科

特徴 常緑高木で新枝は四角形で稜があり、密に毛が生える。葉は厚い革質で対生し、長楕円形または楕円形で長さ8～12cm、全縁で光沢がある。雌雄異株。花は葉腋に集まってつき、白色で径約1.5cm。果実は球形で径約4cm、種子は3、4個。果実は食用とはならず、コウモリが好んで食べる程度である。沖縄では防風・防火林にする。樹皮から黄色染料がとれ、紅型染めに用いる。

分布 沖縄、宮古、八重山の各諸島、および台湾、フィリピン分布。



葉が裏側に反る



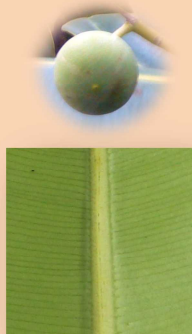
真っ直ぐな樹幹が多い

テリハボク

オトギリソウ科

特徴 常緑高木で高さ20m以上に達する。葉は堅い革質で対生し、楕円形または長楕円形で全縁、長さ10～15cm。中央脈は裏面に突出し、側脈は互いに平行、表面は光沢がある。総状花序を腋生し、白色で径約4cmの香りのある四弁花を開く。雄しべは黄色で多数ある。核果は球形で径約3cm、種子が1個ある。海岸に生え、防風林、街路樹に適する。また材は堅くて光沢があり、樹皮は染料、種子の油は外用薬とする。

分布 小笠原、沖縄、宮古、八重山の各諸島、および台湾、熱帯アジア、マダガスカル、ポリネシアに分布。



細かい平行な側脈



葉が表側に反る



曲がった樹幹が多い

林野庁 九州森林管理局 指導普及課 西表森林環境保全ふれあいセンター
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108

URL: <http://www.kvusvu.kokuvurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>